

『深海魚摩訶ふしぎ図鑑』(「生きもの摩訶ふしぎ図鑑」シリーズ)
北村雄一絵と文 保育社 2008年
コミカルなキャッチコピーと不気味なイラストで深海魚について詳しく知ることができる1冊です。特徴的なところは大きい字で書かれているので、パラパラ見るだけでも深海魚マスターになれるかも!?

『チリメンモンスターのひみつ さぐれ! 海の生き物のくらし』
きしわだ自然資料館・武田正倫監修 いずもりよう絵 借成社 2016年
普段食べているチリメンジャコの中にはめったに見かけませんが、実はちょっと変わった形でモンスターみたいな海の生き物「チリメンモンスター」がいます。
皆さんもチリメンモンスター、略して「チリモン」を探してみましよう!

『わらうプランクトン』(小学館の図鑑NEOの科学絵本)
ひらいあきお著 小学館 2015年
にっこり笑っていたり、エイリアンみたいな顔をしていたり、かわいい、おもしろい、ちょっとかわった顔をしたプランクトンたちがたくさんっています。プランクトンは小さいけれど、とっても個性的な顔をした子が多いんですよ! 近年、このプランクトンたちが異常発生し、海が赤色になってしまう現象「赤潮」が発生しているのをご存知でしょうか? わたしたちの生活排水や、工場から出た産業排水が原因でプランクトンが増え、海が赤くなってしまう現象です。赤潮になってしまった海はとても臭く、もちろん海の生きものたちも死んでしまい、生態系も崩れてしまいます。小さなプランクトン、そして、きれいな青い海を守るためにもわたしたちができることを考えなければいけませんね。

『地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル～あなたのためにせつなものはなんですか?～』
山本敏晴著 小学館 2008年
みなさんは「ツバル」という国を知っていますか? ツバルは9つの島々と美しい海からできていて、サンゴ礁でできたわかのような形をしています。島にあるものはみんなのもの。島全体がひとつの大きな家族のようにしている素敵な島です。しかし今ツバルは将来、海面上昇が原因で沈むかもしれないといわれています。この本は「自分の大切なもの」をテーマにツバルの子供達に絵を描いてもらっています。いろんな絵を見るたびにツバルの美しさと地球温暖化の重大さが分かる本です。

『海のミュージアムー地球最大の生態系を探る』
ルイス・ブラックウェル著 千葉啓恵訳 創元社 2017年
世界の写真家の105枚のベストショットと共に海について学べます。
40億年の軌跡、魅惑的な生き物の営みや、人と海とのかかわりなど多くのことを知ることができるので、これを読んだあなたは「キレイ」という言葉だけでは語れないほど海に魅了されるでしょう。



『滅びゆく日本の動物50種』
加藤陸奥雄・沼田眞監修 上野俊一編著 日本理科美術協会挿画 築地書館 1993年
この本には、広く知られている絶滅危惧種だけではなく、私たちの身近にいた動物の絶滅危惧種も取り上げられています。その動物ごとに、その生態がわかりやすく書かれており、その動物がなぜ絶滅したり、絶滅しそうになっているのか、その理由もわかりやすく書かれています。この本を作った方は、他にも植物や昆虫の絶滅危惧種を取り上げた本を書いているので、そちらもぜひ読んでみてください。

『どっこい生きてる、ゴミの中ーたくましい海の魚たちー』(生きもの摩訶ふしぎ図鑑シリーズ)
伊藤勝敏写真・文 保育社 2010年
海の中にはいろいろな魚がいっぱい。その中にはゴミをすみかに生活しているたくましい魚も!
どんな魚がいるか見てみよう!

『サンゴの森』
(そうえんしゃ・写真のえほん3) なかむらこうじしゃん キャサリン・ミュージックぶん そうえん社 2007年
サンゴ礁は魚たちのたいせつなすみかだったり、コブシメというイカはサンゴにタマゴをうみつつけたり、ほかにもサンゴにはいろいろな生きものたちが…。サンゴについて、サンゴに関わる生きものたちについて、きれいな写真で分かりやすく教えてくださいますよ。サンゴ、大切にしていきたいですね。

『何を食べてる? どうやって刺す? クラゲ大図鑑 ふしぎな生態にせまる!』
並河洋監修 PHP研究所 2010年
魚類の乱獲、温暖化によるクラゲの死亡率の低下、コンクリートの護岸や海の汚染による「富(ふ)栄養化(えいようか)」によりクラゲの数が異常に増殖しています。クラゲは食べることもでき、化粧品にも利用されているので、増えても問題ない? いいえ、そんなことはありません。漁網にクラゲが引っかかり、網が破れたり発電所の運転を止めてしまったりすることもあるそうです。
ふわふわと漂っている姿が、妖しくも美しいクラゲ。この先もずっと人間と共に歩めるように、海の環境について考えてみませんか?

『食からみえる「現代」の授業』(「ひと」BOOKS)
千葉保著 太郎次郎社エディタス 2011年
世界中のマグロを食べる日本人。マグロの取れ高は減っているのに消費量は増えている。中国やヨーロッパが増えても世界一マグロを食べる国には変わらない。日本人が食べるマグロのフード・マイルージはとても高い。日本はマグロを食べるために地球を汚している。養殖マグロも問題が。マグロ1キロ太らせるためにえさ15キロも必要。空輸するのでフード・マイルージ的にも問題。卵から成魚までの生存率が0.1%から3%までアップ。でも養殖の食べ残しのえさやふんが、環境を汚しているという指摘もある。
マグロは問題多し。

『うみまーる ～水の惑星の仲間たち～』
井上慎也著 東方出版 2006年
海の生物の多様性をまざまざと見せ付けられる写真集です。美しい珊瑚礁 かわいらしいハリセンボン ひょうきんなミナミギンポ はずかしがりのピグミーシーホース ウミガメの三段跳び ご機嫌なサザナミフグ なんと色彩豊かな宝石箱のような海! いつまでもこの奇跡のように美しい海の中を守りたいものです。